

# 立川市議を大沢から山本ようすけ君にバトンタッチしました

私は 20 年間立川市議として活動していましたが、今年 2018 年 6 月の立川市議会議員選挙で立候補をせずに、後継となる山本ようすけ君にバトンタッチをするための活動をみなさんと始めました。そして山本君は無事に当選し、新たな市議になることが出来ました。

日の出ごみ処分場とのかかわりは、私が市内の重い障害を持つ人々の福祉作業所の責任者として仕事をしていた 1993 年のことでした。田島喜代恵さんが立川市で日の出ごみ処分場のことを訴えました。当時は立川市の職員労働組合が日の出町の処分場の問題に関心を持ち、応援してくれていました。私は当時からごみ問題に関心を持っていて、市が分別取集していなかった時代に福祉作業所の仕事で新聞やダンボール、ビール瓶や缶などを回収するリサイクルの仕事をしていましたので、田島喜代恵さんの話を聞いて「みみずの会」というごみ問題を考えるグループを作りました。

そして当時、日の出町の処分場建設問題を記録した映画「水からの速達」という映画の上映会を立川市で開催し、日の出処分場問題に関わり現地に出向くようになりました。

その後、新たに計画された二ツ塚処分場の予定地の一部を入手し、土地を売らないで処分場建設に反対するトラスト運動が 1994 年に始まりました。このトラスト運動では 1950 年代の砂川闘争を経験し、土地収用に関して詳しい知識を持っておられた島田清作さん（大沢の前任市議で 28 年間立川市議）が大きな力を発揮してくれました。私自身は 1998 年に島田さんの跡をついで議員になりました。トラスト運動は

2000 年に石原都知事の強権的な政策により行政代執行で土地を奪われ、処分場建設が進みました。

その後も、代執行費用の催告とその対応、その残余分の金額を支える会にカンパしてもらうなどトラスト運動の残務処理は続きました。日の出の森・支える会の事務所は初めは島田清作元議員の事務所、その後大沢の議員事務所に置いてニュースの作成、印刷、発送の拠点としてきました。



左から島田清作さん、大沢ゆたか、山本ようすけ君

今度は、若い山本ようすけ君がそのまま事務所を引き継ぎ支える会の事務所としても使わせてもらいます。山本君はまだ 27 歳ですが、私の事務所が販売の拠点となっているホームレスの人が売ることのできる雑誌「ビッグイシュー」販売のボランティアを 8 年前から手伝っていました。少し前から日の出の森・支える会にも参加しています。今後は日の出町の処分場の見学などで現地に行って地元の人たちから処分場やエコセメント工場の現状などを学び、現地の人たちとの交流をさせていただきたいと考えています。

大沢ゆたか